

## JGR メディア資格区分及び認定ガイド

JGR では、メディアの資格区分を以下のように設定しています。メディア申請に対し、JGR は取材者の業務及び資質・経験に応じて適切な資格区分への認定を行います。

#	種別	メディアセンター以外アクセスできるエリア
1	クレデンシャルメディア	サービスパーク内全域、観戦エリア
2	タバードメディア	メディアポイント限定
3		オールアクセス (年間パス取得者に限る)
		(1.1に加え)SS 内の指定メディアポイント (1.2に加え)SS 内全域(ただし、NO-GO およびコントロールゾーン等を除く)

以下にそれぞれの資格区分の対象、立ち入り可能なエリア、必要とされる経験や資質について説明します。

### 1 対象

#### 1.1 クレデンシャルメディア

メディア申請が受理され、取材が認められたメディアはクレデンシャルメディアとなり、身分証明となりメディアクレデンシャル(IDカード)と駐車パスが貸与されます。

ラリー会場で、一般の観客の立ち入りが認められているエリア全域と、有償観戦エリアに対しての立ち入りが認められます。サービスパーク内においては、写真撮影やインタビューのため、各選手に割り当てられた整備エリアに立ち入ることが認められますが、実際の立ち入り際にはそのチームに許可を得たうえで、作業の支障にならないように細心の注意を払い、チーム員並びにオフィシャルの指示には必ず従ってください。なお、サービスパークには危険が伴い、競技中の整備には時間制限があるために、状況によっては非常にリスクが高くなる場合があります。チームおよび主催者、JGRはいかなる理由であっても、サービスパーク内におけるメディアの負傷や損害に対する一切の責任を負いません。

対象：ライター、編集者、カメラマンなど全メディア  
立ち入り可能なエリア：観客が立ち入り可能なエリア(有料観戦エリア含む)  
必要な経験・資質：ラリーに関する一般的知識

#### 1.2 タバードメディア

タバードメディアは、スペシャルステージにて撮影を行うカメラマン(静止画・動画・ドローン操縦者含む)のための区分です。スペシャルステージへの立ち入りには危険が伴うため、原則としてラリーの取材経験が豊富かつ競技規則およびラリー競技のセーフティーについて熟知しているカメラマンのみが対象であり、ライターや編集者など、ステージ内の撮影に関わらない者は認定の対象外となります。

タバードメディアは2つの区分に細分され、それぞれの認定メディアに対しては身分証明となりメディアクレデンシャル(IDカード)と、区分に応じたタバード、スペシャルステージへの進入やスペシャルステージ併設のメディアパーキングの利用を認める駐車パスが貸与されます。

##### 1.2.1 メディアポイント限定タバードメディア

SS 内に主催者が設定するメディアポイントに立ち入りが認められるメディアです。SS 内ではメディアポイントからコース内に出ることは認められず、担当オフィシャルの指示に従わなければなりません。

対象：SS 内で撮影を希望するカメラマン・ドローン操縦者  
立ち入り可能なエリア：クレデンシャルメディアのエリアに加え、SS 内のメディアポイント  
必要な経験・資質：ラリー競技および競技規則に対する理解

## SS 内での撮影経験

1.2.2 オールアクセスタバードメディア

SS 内の全域(NO-GO エリアとして明示的に定められた場所、コントロールゾーンなど競技上立ち入りが禁じられている場所および安全上の懸念がある場所や、競技の進行に支障を及ぼすと考えられる場所を除く)に立ち入りが認められるメディアです。

OO カーの到着時点までに撮影場所を確定しなければなりません。セーフティーカーはその場所が適切であるかどうかを確認し、問題がある場合には移動を指示します。オフィシャルの指示には必ず従わなければなりません。場所の移動およびステージからの退出はスイーパーカーの通過とオフィシャルの許可が条件となります。

- |             |  |
|-------------|--|
| 対象:         | SS 内で撮影を希望するカメラマン・ドローン操縦者<br>(年間パス取得者または JGR が特別に認めた者に限る)                        |
| 立ち入り可能なエリア: | SS 内全域(NO-GO エリア、コントロールゾーン等除く)   |
| 必要な経験・資質:   | WRC や APRC、ラリー北海道など、ステージ内オールアクセスに相当するラリーにおける SS 内での豊富な撮影経験<br>ラリー競技およびその規則に対する熟知 |

## 2 昇格パスおよび条件

## 2.1 クレデンシャルメディア

ラリー競技での撮影経験が少ないカメラマンは、クレデンシャルメディアとして認定されます。クレデンシャルメディアは観戦ポイントからの撮影が可能です。クレデンシャルメディアとしての撮影を通じて、ラリー競技の進行やルールについて理解を深めていただきます。

## 2.2 メディアポイント限定タバード

クレデンシャルメディアのとしての経験しかないカメラマンが SS 内での撮影を希望する場合、タバードメディア区分のメディアポイント限定タバードがその入り口となります。

新たにメディアポイント限定タバード資格の認定を希望する場合、申請者は JGR 指定の研修の受講が必要となります。(注:提供した資料を読んでネットで回答を提出していただきます。)

全日本ラリー選手権でのタバードメディア経験が過去 1 年で3戦以上ある場合、この区分での申請条件を満たすものとして扱われます。

## 2.3 オールアクセスタバード

オールアクセスタバードへの認定は、監督者同伴条件付き認定を経て、通常のオールアクセスタバード認定となります。(過去の取材実績等により JGR が特に認定した場合を除く。)

メディアポイント限定タバード資格を持つカメラマンおよびドローン操縦者が、監督者同伴条件付きオールアクセスタバードとして認定されるには、以下の条件を満たす必要があります。

メディアポイント限定タバードメディアまたはそれに相当するメディアとして、全日本ラリー選手権の競技会における SS 内撮影経験、またはそれに相当すると JGR が判断する経験。

これを満たし、申請が認められたメディアは、「監督者同伴」の条件付きでのオールアクセスタバードが認定されます。

**【監督者同伴条件】**

SS 内では、通常の(監督者同伴条件のない)オールアクセスタバード保持者(=「監督者」)と完全に行動を共にすることが条件となります。取材活動中は監督者の指示に従わなければなりません。

監督者は申請者自らが手配しなければなりません。一つの大会で複数の監督者を選定することも可能です。

【監督者同伴条件の解除】

監督者同伴条件付きでの SS 内取材を 6 戦以上行い、その行動について各監督者から問題がないと評価された場合、JGR は同条件の解除の審査を行います。この審査に合格すると、同条件は解除となります。

3 認定の取り消し・変更

JGR はいかなる時点でも、認定資格を取り消し、あるいは変更する権利を持っています。これらにつながるケースとして、以下に一部の例を示します。

- 取材活動において問題が見られた場合
  - 例:安全上の問題、倫理上の問題、円滑な競技進行に対する問題、プロフェッショナルにふさわしくない行動等
- 取材申請が認められたにも関わらず、事前連絡なく取材を行わなかった場合。
- 公表された取材の成果物の内容や、言動に関して、JGR の理念や目標、モータースポーツの利益などに著しく反するものがあつた場合

大会中の資格認定の停止や変更は、大会のメディア担当オフィシャル(メディアオフィサーまたは競技長により指定された者)にもその権限があります。

4 メディア向け安全講習会の参加

JGR が開催する安全講習会が行われる場合には、オールアクセスタブードメディア及び今後オールアクセスタブードメディアを目指すメディアは必ず参加しなければなりません。(クレデンシャルメディアは任意参加とします。)

5 その他

ご不明な点や詳細については、JGR 事務局 メディアデスク (Email: media@jgr.jp)にご連絡ください。

2025 年1月1日 制定